

付 議 第 3 号

県立高等学校再編計画第3次実施計画に関する議案

県立高等学校再編計画第3次実施計画を、案のとおり決定することについて、高知県教育委員会事務委任規則（平成4年高知県教育委員会規則第1号）第2条第38号に基づき、議決を求めます。

高知県教育委員会事務委任規則

第2条 教育委員会は、次に掲げる事務を除き、その権限に属する事務を教育長に委任する。

(38) 前各号に掲げるもののほか、教育委員会が特に重要と認める事項を決定すること。

(案)

県立高等学校再編計画

第 3 次 実 施 計 画

平成 2 1 年 1 2 月

高知県教育委員会

目次

はじめに	1
1 計画期間	1
2 基本的な考え方	1
(1) 全日制の課程	1
(2) 専門高校	2
(3) 定時制の課程	2
(4) 通学支援	3
3 高校教育の一層の活性化	3
(1) 系統的な学力向上対策	3
(2) 高大連携教育の推進	3
(3) キャリア教育の推進	4
(4) スペシャリストの育成	4
4 実施計画	4
(1) 全日制の課程の募集停止	4
(2) 専門高校の学科改編	5
(3) 入学定員の見直し	6
おわりに	6

【資料編】

・ 県立高等学校再編計画「第3次実施計画（案）」 に対するご意見と県の回答	7
1 学区別中学校卒業生数の推移	10
2 県立高等学校の学級規模	11
3 高知県公立高等学校設置学科	12
4 全日制高等学校の生徒数にみる 普通科と産業系専門学科の割合	14
5 県立高等学校新設改編等実施状況	15
6 中学校高等学校卒業生の進学率の推移	19

はじめに

本県では、中学校卒業生数の減少や多様化する生徒のニーズに応えるため、平成15年11月に、県立高等学校の質的向上を図り、生徒たちにより良い教育環境を提供することを目的に、平成16年度から25年度までの10年間を見通した長期的な計画である「県立高等学校再編計画」を策定し、「特色ある学校づくり」と「県立高等学校の適正な規模と配置」に取り組んでいる。

現在は平成16年度から19年度までの第1次実施計画に続き、平成20年度から22年度までの第2次実施計画を進めているところである。

第2次実施計画では、「県立高等学校の適正な規模と配置」に重点的に取り組み、大橋高等学校及び仁淀高等学校をそれぞれ、平成20年度、21年度に募集停止とし、高知追手前高等学校吾北分校、中村高等学校西土佐分校及び窪川高等学校定時制を条件付きで募集停止とした。

平成21年度現在、高知追手前高等学校吾北分校及び中村高等学校西土佐分校については、学校の努力と地域の支援等により、入学者数が最低規模の基準を上回る状況が続いており、募集停止には至っていない。窪川高等学校定時制は学校の努力と地域の支援を考慮し、募集停止を1年間延期したが、平成22年度の募集停止が決定している。

この間、各高等学校では生徒の学力の向上や特色ある学校づくりに取り組み、大学等への進学率の向上、国公立大学への進学者数の大幅な増加、就職内定率の向上などの成果を上げてきている。

しかし、再編計画の最終年度である平成25年度までに、さらに中学校卒業生数が減少することを考慮に入れ、生徒たちにより良い教育環境を提供するためには、引き続き「県立高等学校の適正な規模と配置」に取り組む必要があることから「第3次実施計画」を策定するものである。

1 計画期間

平成23年度～25年度の3年間

2 基本的な考え方

(1) 全日制の課程

全日制高等学校1校あたりの第1学年の平均学級数は、平成15年度には4.0学級、平成18年度には3.8学級であったものが、平成21年度には3.7学級になった。さらに、平成25年度には3.6学級と推計され、小規模化は引き続き進むことが予想される。

小規模校は、少人数集団である利点を生かした教育が可能であるが、高等学校として十分な教育効果をあげるためには、共通性と多様性のバランスがとれていることが必要であり、小規模校では、教育課程、学校行事や部活動、学習集団等の面で

十分な多様性が期待できない。そのため、地域への適正な配置に留意しつつも、一定規模の集団を確保する必要がある。

全日制高等学校は、平成15年度には39校であったが、統廃合により平成21年度は34校で入学者の選抜を行った。再編計画の最終年度である平成25年度には、中学校卒業生数の減少や適正な規模と配置とを考慮して、高等学校教育にふさわしい教育環境を提供するために、31校程度にする必要がある。

(2) 専門高校

専門高校は、平成17年度に高知農業高等学校及び宿毛工業高等学校、18年度に高知海洋高等学校が大規模な学科改編を行った。また、平成17年度には大方商業高等学校が多部制単位制普通科の大方高等学校に、18年度には高知園芸高等学校が総合学科の春野高等学校へと大規模な改編と校名変更を行った。さらに必要に応じて学科の改編や学科の新設を行い、生徒のニーズや社会の変化に対応してきた。

現在、高知海洋高等学校以外の専門高校はすべて各科1学級になっている。細分化し、入学時から継続的に学習することで、専門性の深化や高度な資格取得などの面で効果的なシステムになっている面もあるが、学科によっては基礎的な内容を学習した後、自分の興味・関心に沿った内容をより広く深く学ぶシステムを取り入れるほうが生徒のニーズに対応できる場合もあり、特に商業教育を主とする専門学科では、学科の在り方を再検討する時期に来ていると考える。加えて、今後さらに進む中学校卒業生数の減少に対応するためには、生徒のニーズや社会の変化を考慮して、学科の改編や科の統廃合を行う必要がある。

(3) 定時制の課程

定時制の課程は、平成15年度には14校（独立校である高知北高等学校を含む）あり、入学定員840人に対して311人が入学していた。昼夜開講の多部制単位制高等学校の開設及び定時制の再編を進めた結果、平成21年度には13校（独立校である中芸、高知北、大方高等学校を含む）になり、入学定員880人に対して312人が入学し、そのうちおよそ8割が中学校新卒者である。

なお、窪川高等学校定時制は、平成22年度の募集停止が決定しており、定時制課程は12校になる。

地域別にみると、東部、高知、高吾、幡多それぞれに3校が、また、多部制単位制の独立校が東部、中央部、西部にそれぞれバランスよく配置されている。

平成21年度に定時制の課程に在籍している生徒数は1,247人で、平成15年度の生徒数の89.6%となっている。全日制の課程では、同じ年度で生徒数が81.5%まで減少していることと比較すると、定時制のニーズは減少せず、一定しているとも考えられる。また、定時制に転編入した生徒数は平成20年度に71

人であり、学びの場を定時制に求める生徒は今後も大幅に減少することはないと予想される。

定時制を志望する生徒は、さまざまな入学動機や学習歴を持っており、生徒一人一人のニーズや個性に応えていくことが必要であることから、平成19年度にすべての夜間定時制の課程に単位制が導入され、多部制単位制高等学校の開設と併せ、県内の全域で、多様な学習ニーズやライフスタイルに応じた柔軟な定時制の教育システムが構築されつつある。さらに、定時制の課程の多くは学習の時間帯が夜間であり、通学の利便性を考慮すると、県内各地域に一定数の学校を配置することが必要になることから、第3次実施計画においては12校を維持する。

(4) 通学支援

経済的な理由により高校教育を受ける機会が奪われることのないよう、奨学金や授業料の減免制度を設けている。

募集停止の対象校が存在する地域の中学校卒業者が高等学校に通学するための支援策として新設した、高知県県立高校通学支援奨学金の制度を継続（募集停止の年度から3年間）する。

また、高知県高等学校等奨学金についても、平成22年度から貸与の対象になる要件を緩和するとともに、通学費の一部に充てることができる金額を加算するなど拡充を図っている。

なお、平成21年度から23年度までの3年間について、保護者の経済的負担を少しでも軽減できるよう、授業料の減免対象を拡大している。

3 高校教育の一層の活性化

(1) 系統的な学力向上対策

高等学校では平成21年度から、基礎学力の定着と学力の向上に特化した系統的な学力向上対策を進めている。中学校との効果的な接続から進路希望の実現まで、4つの段階により系統立てて学力の向上を図るもので、事業の中から、各高等学校が生徒の実態や教育目標に沿った学力向上策を選択し、実施している。

この事業を効果的に活用することにより、生徒一人一人の可能性を広げ、将来の選択肢を増やすことにつなげる。

(2) 高大連携教育の推進

高等学校と大学の連携については、現在、高等学校、大学それぞれを会場にして、大学の教官による授業、講演、高等学校の教員と大学の教官とが協働してのカリキュラム開発、生徒と学生が協力しての学習会やイベントなどが実施されており、高等学校の特色化にとって重要な視点である。

生徒にとって大学での学習体験は、進路に対する意識と学習意欲を向上させ、学びの質を高めることにもなり、ひいては、生徒のレベルアップや進学率の向上にもつながることが期待される。

また、高等学校と大学との相互理解を深め、高等学校教員の資質の向上にも役立つことが考えられることから、高大連携教育を充実・拡大し、生徒の学びの場を広げることに努める。

(3) キャリア教育の推進

生徒一人一人が自分の在り方や生き方を考え、主体的に進路を選択するために、学校の教育活動全体を通じてキャリア教育を推進することが、平成21年3月に告示された高等学校学習指導要領で明記された。

現在、キャリア教育は、文部科学省の研究指定校における実践研究や、キャリアカウンセリングセミナーでの教員養成、総合的な学習の時間での取り組みなど、各高等学校で研究や実践が始まっている。

生徒が自分の在り方や生き方を主体的に考えるためには、キャリア教育の視点を取り入れた教育活動に取り組むことが必要で、就業体験や地域社会での体験活動、地域の人材や社会人の活用、調査・研究のための機会や場の充実、プレゼンテーションの力の育成、各種の資格や検定などへの挑戦、生徒が活躍できる場の設定など、教育活動を工夫・改善することに加えて、教員の研修も行い、キャリア教育の充実に取り組む。

(4) スペシャリストの育成

職業教育を主とする専門学科では、専門分野の学習で身に付けた知識や技術、技能を生かして職業資格の取得に挑戦することは、生徒が目標をもち、意欲的に学習に取り組むうえで効果的である。さらに、高度な資格や複数の資格を持つことは生徒の将来の可能性を広げることにもつながるため、生徒一人一人が自分の興味・関心や能力・適性に応じて資格取得に取り組めるよう、系統的な指導方法の工夫・改善に努める。

また、専門教育に対する学習意欲を高めるために高大連携教育にも取り組む。

4 実施計画

(1) 全日制の課程の募集停止

- 宿毛高等学校大月分校を募集停止とする。

実施予定年度	平成24年度
対応	○ 本校である宿毛高等学校の一層の活性化を図る。 ○ 高知県県立高校通学支援奨学金、高知県高等学校等奨学金及び授業料減免制度等により就学を支援する。

大月分校は、平成7年度に入学定員が40人になって以来、30人以上の入学者数を確保してきたが、平成17年度に16人に急減し、20、21年度は、それぞれ17人、16人と、分校の最低規模の基準（入学者数が20人未満）を2年続けて下回っている。特に、平成17年度以降は地元中学校卒業者のうち大月分校に入学する生徒は平均13.5%（7.8人）と低く、近隣の総合学科や専門高校への入学者が増える傾向にある。学習指導の充実や部活動の活性化のための教員の加配、特色ある取組のための予算措置など振興に取り組んできたが、生徒確保にはつながっていない。このような経緯や地元中学校卒業生数、地元からの入学者数の見通しなども考慮し検討を重ねたが、今後は十分な教育環境を維持することが難しいことから、募集停止とする。

なお、大月分校は募集停止時の在校生が卒業する平成25年度まで存続する。

(2) 専門高校の学科改編

○ 伊野商業高等学校の学科改編を行う。

実施予定年度	平成23年度
予定募集定員	160人
教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単位制による課程とする。 ○ 商業系1学科で生徒を募集し、2年次以降は、興味・関心、能力・適性に応じた系列（コース）で学習し、専門性を深める。 ○ 高度な資格取得や進学希望にも対応する。

伊野商業高等学校は、現在、商業に関する5つの科をもち、資格取得、インターシップ、地域との連携、起業意欲の醸成などに取り組んでいる。しかし、中学校卒業生数の減少や、これまでの再編計画で近隣に単位制や総合学科が開設されたことなどにより平成17年度以降は入学者数が入学定員に満たない状況が続いている。

また、平成19年11月の高知県産業教育審議会答申でも、商業に関する学科には新たな魅力、新しい形態の教育の在り方が必要であり、「商業の基礎的な科目の履修後、自分の「生き方」に合わせて自由に教科を選択できるような学科の在り方や、既存の科目にとらわれず、学校設定科目なども含め、社会の変化に適合し、生徒のニーズに最適な科目について広くより深く学ぶためのシステムについて検討すること」と改編の方向性が示されている。

これらのことから、学校の一層の特色化・魅力化を図るために学科改編を行う。

高知海洋高等学校は、平成18年度に学科の改編を行い、平成21年度には3級海技士の資格取得に向けて5年一貫教育の船舶職員養成課程を海洋学科内に設置した。学校の一層の魅力化を図るために、新造する土佐海援丸のより有効な活用、海洋学科のカリキュラムの見直しなど、教育内容の工夫・改善に努める。

農業に関する学科を持つ高等学校は、中央部と西部に各1校ある。それぞれ農業の持つ教育力を生かし、「いのちをそだてる」学習を通して生徒の心身のバランスのとれた成長を支援するとともに、地域、小中学校、大学や研究機関との連携に取り組み、成果を上げている。今後も、農業教育はもちろん、食や環境など、地域の学習の中心的な存在となるよう一層の魅力化を図る。

工業に関する学科を持つ高等学校は5校あり、県内の各地域から進学できるようバランスよく配置されている。それぞれの学校の教育目標のもと、資格取得や地域との連携などに取り組み、高い就職率を維持するとともに、進学面でも実績を上げ、評価を得ている。しかし、中学校卒業生数の減少が今後さらに進むことから、学校の特色、地域性、今後の入学者数の推計などを踏まえ、高知東工業高等学校、須崎工業高等学校、宿毛工業高等学校については、学科の改編を進め、適正な学校規模とする。

(3) 入学定員の見直し

全日制、定時制の入学定員については、高等学校の統廃合や学科の改編を実施し、再編計画の初年度である平成16年度から、平成22年度までに入学定員を975人減じてきた。

しかし、第3次実施計画の最終年度である平成25年度には、県内の国公立中学校卒業生数が、平成22年度に比べさらに500人程度減少することが予想されている。

今後、高等学校の統廃合や学科の改編などを実施し、入学定員を減じていくが、普通科、総合学科においても、地元中学校卒業生数の推移や地元中学校卒業生の動向などを考慮し、入学定員の見直しを継続する。

おわりに

第3次実施計画では「県立高等学校の適正な規模と配置」に重点的に取り組むが、あわせて、今回は再編の対象となっていない学校についても、県民から信頼され生徒のニーズに応えることができるよう、教育環境の維持と魅力ある学校づくりに努め、活性化を図る。

また、中学校卒業生数は平成26年度以降も減少を続け、平成30年度には平成25年度に比べさらに600人程度（平成21年度に比べると1,200人程度）の減少が見込まれる。

平成21年3月に県内の国・公立中学校を卒業した生徒は6,199人で、このうち、4,877人が県立高等学校（全日制、定時制、通信制合計）に入学している。中学校卒業生数の推計と進路の動向から考えると、将来は県立高等学校の入学者数が3,900人程度になるという、非常に厳しい状況が想定されることから、本再編計画終了後の県立高等学校の在り方については、再編計画の評価を踏まえ、高知県産業教育審議会や県立高等学校教育問題検討委員会での審議を経て、次の再編計画を検討、策定する必要がある。

県立高等学校再編計画「第3次実施計画（案）」に対するご意見と県の回答

県立高等学校再編計画「第3次実施計画（案）」について、ご意見を募集したところ、次のとおり、ご意見をいただきました。

- 1 意見募集期間 平成21年10月16日～平成21年11月16日
- 2 意見数 4件
- 3 ご意見の内容と回答

(1) 高校再編について

意見の概要	県教育委員会の回答
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大月分校に対し、どのような活性化が行われたのか。 	<p>○ 習熟度別学習の実施や選択科目を設置のための教員の加配や、部活動等の活性化のための専門的な教員の配置を行うとともに、生徒会を主体とした地域との交流などの支援を行ってきました。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大月分校では、地域のニーズと学校との間に乖離が生じていたのではないかと。 	<p>○ 開かれた学校づくり推進のための委員会などで地域の声を聞き、対応してきましたが、小規模校ゆえに、すべてのニーズに応えきれない面はあったと考えています。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校間連携、複数キャンパス、メディア利用など多様な方法を検討すべきではないかと。 	<p>○ 複数の高等学校が協力することは、高等学校を活性化する方法として有効であると考えます。今後、県立高等学校の振興・再編計画を考えていく際の参考とします。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地元からの意見ではなく、県教委のトップダウンによって、統廃合を決める方法に疑問を感じる。 	<p>○ 策定に当たっては、現状や今後の予想、地域の学校の配置などを考慮し、県教育委員会として実施計画案を策定しました。その過程で、学校関係者や地元の方に説明をし、意見をいただいています。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校再編、特色ある学校づくり、通学区域の撤廃は、学習集団の面での多様性を崩す方向で作用してきたのではないかと。 	<p>○ 高校再編などの取り組みは、生徒がそれぞれの高等学校の特色を理解したうえで、進学したい学校を選び、合格に向けて努力をすることを、また、高等学校が適正な規模等により、より良い教育を提供することを目的として実施しているものです。</p> <p>なお、一定の規模をもつ生徒集団であれば、多様性は当然伴っているものと考えます。</p>

<ul style="list-style-type: none"> 中途退学者や不登校経験者を積極的に受け入れていた小規模校を廃止し、中～大規模校化を進めている。 小規模校だからこそきめ細かな指導ができるという利点を生かすべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小規模校の良さや教育的役割については、十分理解をしています。多様な個性や能力を伸ばし、社会性を身に付ける高校生の段階では、一定規模の集団が必要と考えます。 また、学校の規模が大きくなれば、教員も多くなりますので、教育活動の多様化が図れます。 今後も少子化の傾向が続くことははっきりしており、現在の小規模校の良さを維持することさえ困難になることが想定されますので、より良い教育環境を提供するために、計画を実施する必要があると考えています。
<ul style="list-style-type: none"> 今後の高校教育の在り方について、広く意見を聞き、検討することが必要である。その際、学び直し、若者の自立支援、特別支援教育、地域社会などの視点が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第3次実施計画以後も生徒数の減少は続くことから、次の5年、10年を見通した振興・再編計画が必要になります。その際には、県教育委員会と、各高等学校、地域が方向性を合わせ、高等学校の存在価値を高めていくことが必要であると考えます。
<ul style="list-style-type: none"> 大月分校については、さまざまな困難を抱えた層の生徒たちに高校教育を保障するための一層の取り組みをすることがまず必要であり、募集停止は避け、存続に向けての支援に取り組むべきだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大月分校が、多様な生徒たちの個性や能力を伸ばすため、懸命な取り組みを行っていることは十分理解しています。 しかし、今後の生徒数の減少を考えると、現在の大月分校の良さを維持することも困難になると予想されますので、近隣の地域も合わせて高等学校の配置を考慮しました。
<ul style="list-style-type: none"> 次の再編計画では、最低規模の基準について妥当性を再検討すべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 最低規模の基準は、高校生にふさわしい教育サービスが提供できる規模という観点で、平成12年に県立高等学校教育問題検討委員会からいただいた報告によるものです。 今後、新たに振興・再編計画を策定する場合には、適正規模等につきましても再度検討する必要があると考えます。

(2) 高校教育の活性化について

<ul style="list-style-type: none"> 教員の指導力の向上と、進学指導体制の充実を図り、すべての県立高等学校で地域の期待に応えられるような進学指導体制を整えるべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県立高等学校からの大学等への進学実績は伸びている状況にあります。平成21年度から、高校生の基礎学力の定着と進路希望実現のため、系統的な学力向上策を実施しています。
---	---

<ul style="list-style-type: none"> 大学等への進学率や就職内定率などの「ものさし」で高校を評価することは、生徒間・学校間の競争をあおり、学校間格差や学校の統廃合を推し進める方向につながることを懸念する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県立高等学校は、それぞれの教育目標に沿った特色を持っていますので、単一の規準で評価できるものとは考えていません。進学率や就職内定率は、県立高等学校全体の成果です。
<ul style="list-style-type: none"> 高大連携教育については、高校・大学の教員をはじめ、関係者が協議し必要とされる力について共有する場を設けるべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高知大学と県教育委員会は、平成14年度から高大連携教育事業を実施しています。 高校生が大学で学ぶための力を身に付けるためには、大学と高等学校の協働という視点に立って高大連携教育の充実、拡大を図る必要があります。
<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育には、何らかの能力を身に付ける視点ではなく、集団の関係性の中で自立し大人になっていくための支援という視点が必要であり、集団づくり、生徒指導、職業指導などの在り方について、従来型の指導からの変革をめざしていくことが必要ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ キャリア教育は特定の教育活動に特化して行われるものではなく、特別活動も含めた教育課程全体の中で行われるものと考えており、集団の人間関係の中で成長するという視点ももちろん必要です。 基礎・基本の定着の上に、キャリアという視点を取り入れた指導の工夫が必要だと考えます。

その他のご意見

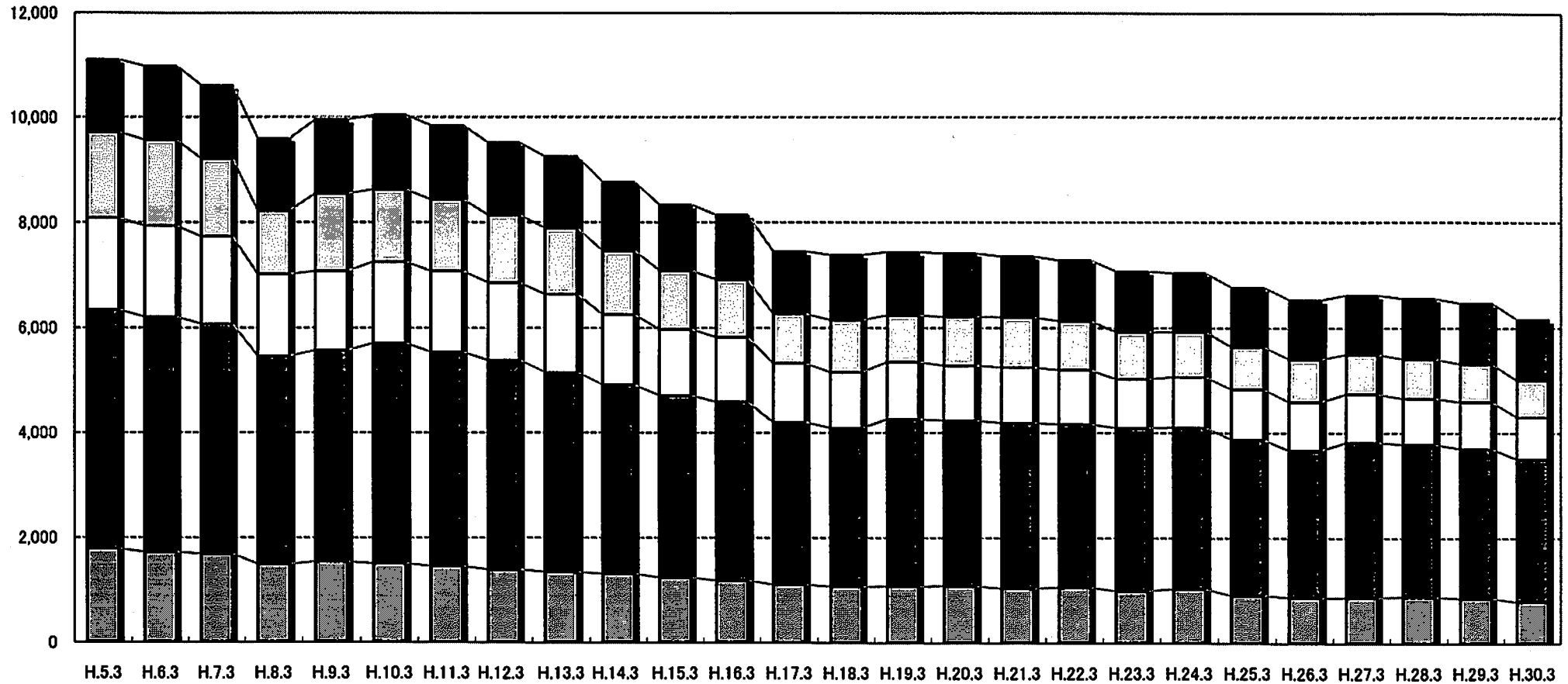
- 小中学校で導入が進められている30人学級などの少人数学級について、高校段階でも導入を検討してはどうか。
- 奨学金制度や授業料減免制度の拡充に向けた取り組みは評価でき、さらなる拡充を望みたい。また、通学支援にとどまらず、授業料以外の教育費・教材費などの負担軽減など、生徒・保護者の一層の経済的負担の軽減を望みたい。
- 県内大学の入試においては、県内枠の積極的な設定と併せ、高校別の枠の設定についても要請していくべきではないか。
- 子どもたちに多様な活動を提供し、十分な教育活動を展開するためには、一定規模以上の生徒集団や十分な教員スタッフ、教育活動の工夫など、適正な規模の集団の中でもまれていくことが必要である。高校の適正規模について、科学的な検証を行い、根拠をもとに再編を進めてほしい。
- 進学率や就職内定率の向上が、生徒の学力の向上や特色ある学校づくりの取り組みによるものかどうかについては、その中身と実態を丁寧に見る必要がある。
- 本県では連携型及び併設型中高一貫教育校の蓄積が一定あり、その経験やノウハウを生かしていくことが可能ではないか。

1 学区別中学校卒業生数の推移

H5.3~H30.3 ただし、H22.3以降は推定

▣ 東部学区 ■ 高知学区 □ 高吾学区 ◻ 幡多学区 ■ 私立

10



学区	H5.3	H6.3	H7.3	H8.3	H9.3	H10.3	H11.3	H12.3	H13.3	H14.3	H15.3	H16.3	H17.3	H18.3	H19.3	H20.3	H21.3	H22.3	H23.3	H24.3	H25.3	H26.3	H27.3	H28.3	H29.3	H30.3
東部学区	1,787	1,719	1,688	1,491	1,539	1,508	1,453	1,389	1,337	1,312	1,239	1,182	1,108	1,069	1,073	1,078	1,033	1,052	991	1,034	913	869	867	885	861	792
高知学区	4,551	4,483	4,383	3,954	4,025	4,197	4,080	3,990	3,812	3,599	3,471	3,410	3,094	3,022	3,188	3,156	3,155	3,110	3,108	3,074	2,962	2,795	2,951	2,897	2,840	2,710
高吾学区	1,743	1,733	1,660	1,560	1,512	1,545	1,541	1,476	1,484	1,338	1,255	1,228	1,117	1,062	1,084	1,045	1,058	1,033	926	954	956	928	923	878	895	807
幡多学区	1,637	1,630	1,478	1,203	1,470	1,373	1,361	1,286	1,257	1,209	1,117	1,091	949	994	891	931	953	935	900	861	803	807	748	751	719	696
私立	1,378	1,415	1,398	1,372	1,408	1,420	1,411	1,375	1,356	1,307	1,252	1,227	1,180	1,239	1,200	1,202	1,158	1,147	1,144	1,114	1,132	1,131	1,129	1,144	1,152	1,158
合計	11,096	10,980	10,607	9,590	9,954	10,064	9,861	9,538	9,253	8,788	8,360	8,168	7,481	7,395	7,436	7,412	7,357	7,277	7,059	7,037	6,766	6,530	6,618	6,555	6,467	6,163

H21.3卒業生比
前年度比

▲ 80	▲ 288	▲ 320	▲ 591	▲ 827	▲ 739	▲ 802	▲ 890	▲ 1194
▲ 80	▲ 208	▲ 32	▲ 271	▲ 236	88	▲ 63	▲ 88	▲ 304

2 県立高等学校の学級規模 (第1学年学級数 全日制・単位制昼間部)

1 平成15年度

() 内は分校数 ※は多部制昼間部

1学年学級数		1	2	3	4	5	6	7	8	10	学校数
普通科系	普通科	城山 大橋 仁淀 (吾北) (西土佐) (大月)	中芸 嶺北 高岡 檜原 四万十	佐川 窪川 滑水 ※ 北					追手前	岡豊	17 (3)
	普通科・その他の 専門学科併設					安芸	南 中村		小津 西		5
	普通科・産業系 の専門学科併設					山田	丸の内				2
専門学科系	農業				園芸 幡多農			高知農			3
	工業			須崎工		東工	宿毛工	高知工			4
	商業		大方商			伊野商					2
	水産			海洋							1
	家庭	(久礼)									1 (1)
産業系総合校			桜ヶ丘							1	
総合系	総合学科			室戸	宿毛	須崎					3
	総合学科・産業 系専門学科併設							東			1
学 校 数		7 (4)	6	7	3	5	4	4	2	1	39 (4)

2 平成21年度

() 内は分校数 ※は多部制昼間部

1学年学級数		1	2	3	4	5	6	7	8	10	学校数
普通科系	普通科	檜原 (吾北) (西土佐) (大月)	嶺北 城山 高岡 窪川 四万十 滑水 ※ 北 ※ 中芸 ※ 大方	佐川	安芸	中村			追手前	岡豊	18 (3)
	普通科・その他の 専門学科併設					丸の内	南	小津 西			4
	普通科・産業系 の専門学科併設					山田					1
専門学科系	農業				幡多農		高知農				2
	工業				須崎工 宿毛工	東工		高知工			4
	商業					伊野商					1
	水産		海洋								1
	家庭										0
産業系総合校			桜ヶ丘							1	
総合系	総合学科			室戸 須崎	宿毛 春野						4
	総合学科・産業 系専門学科併設						東				1
学 校 数		5 (3)	9	4	6	5	3	4	1		37 (3)

3 高知県公立高等学校設置学科

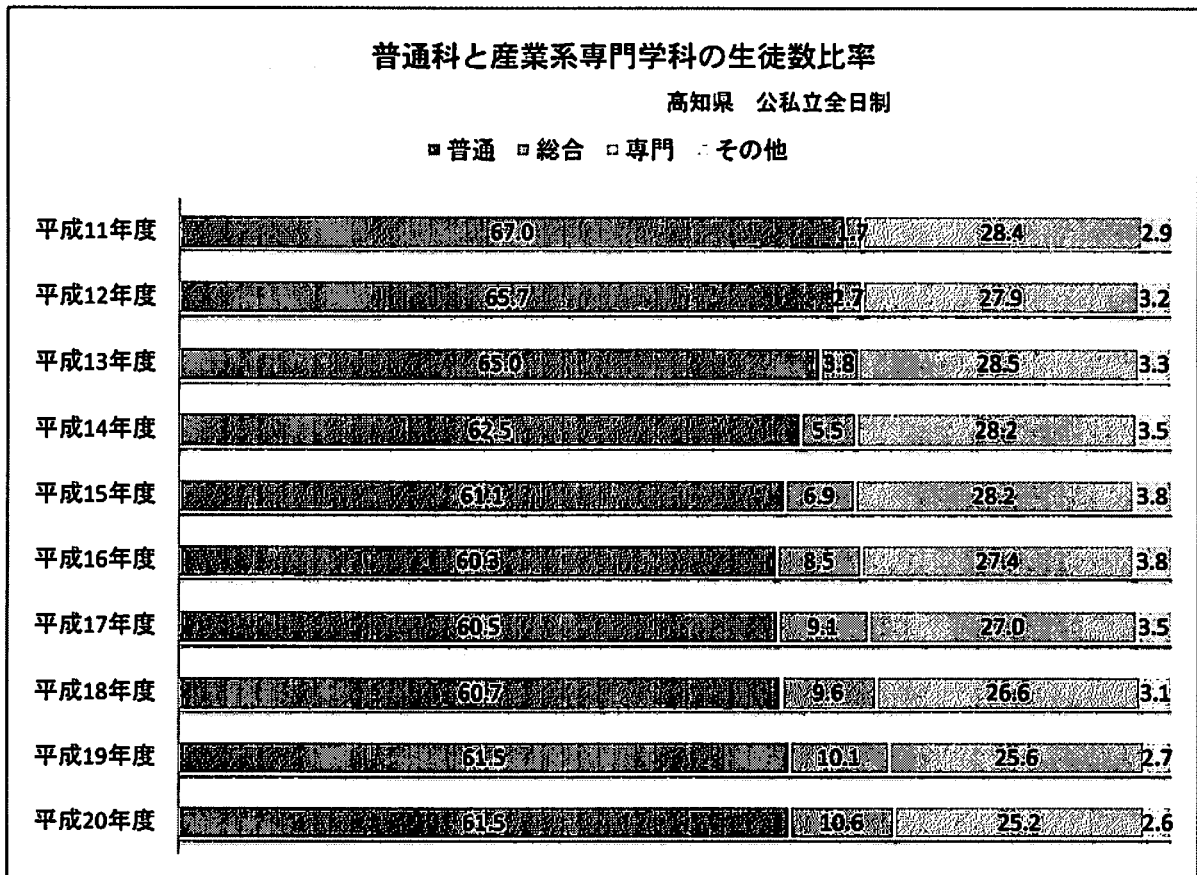
※生徒募集停止となっている学校、学科は除く

平成21年度

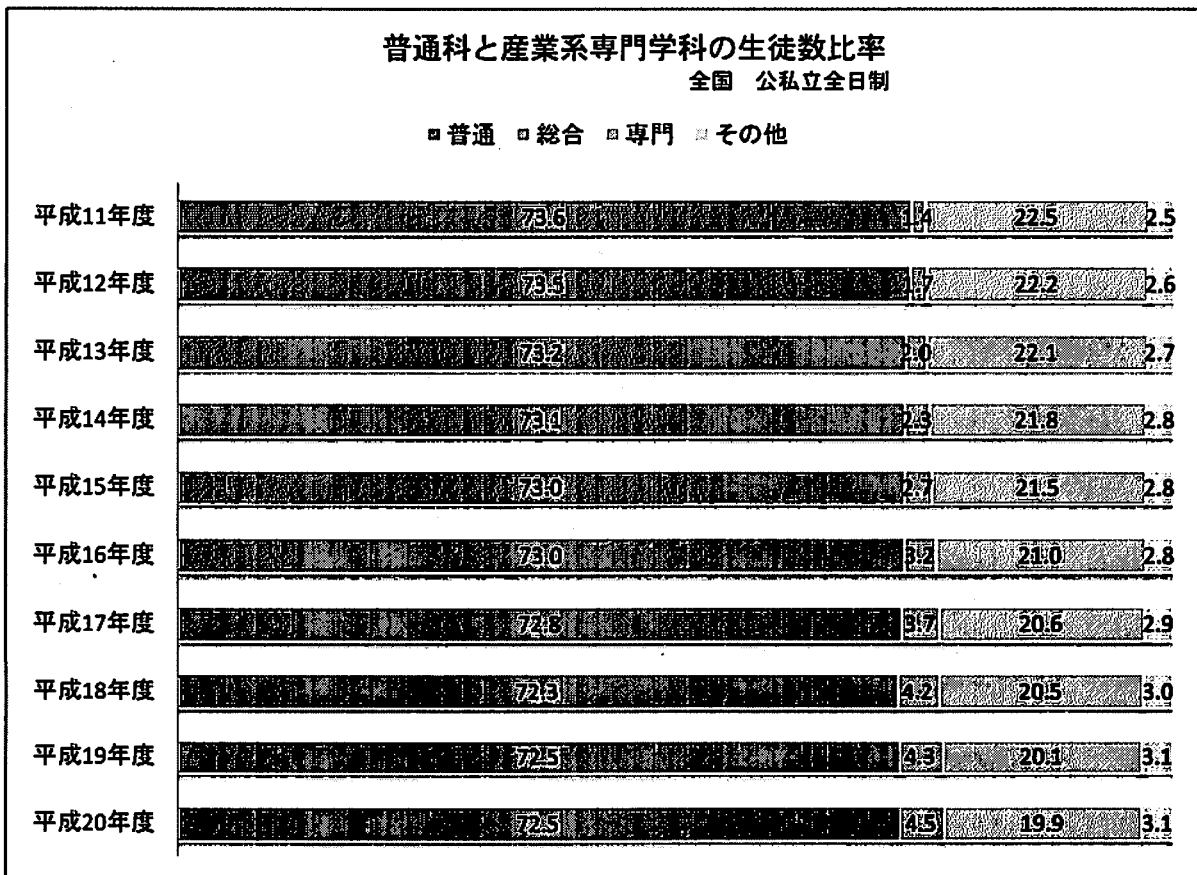
地区	高校名	全 日 制			定時制・(通信制)			
		普通科	専 門 科		総合学科	多部制 単位制	普通科	産業系 専門学科
			産業系専門学科	その他の 専門学科				
東 部	室戸				人文科学 自然科学 体育・芸術 生活福祉 生産工学 ビジネスIT		普通科	
	中芸					普通科		
	安芸	普通科						
	安芸桜ヶ丘		【工業】 環境建設科 土木専攻 建築専攻 環境エネルギー科 【商業】 情報ビジネス科					
	城山	普通科						
	山田	普通科	【商業】商業科				普通科	
嶺北	普通科							
高 知	高知農業		【農業】 農業総合科 畜産総合科 森林総合科 環境土木科 食品ビジネス科 生活総合科					
	高知東工業		【工業】 機械科 機械生産システム科 電子科 電子機械科 理工学科					【工業】 機械科
	岡豊	普通科 普通科(芸術コース) 普通科(体育コース)						
	高知東		【看護】 看護科		人文社会 自然科学 国際コミュニ ケーション 情報メディア 生活教養			
	高知南	普通科		国際教養科 国際科学科				
	高知工業		【工業】 機械科 電気科 情報技術科 工業化学科 土木科 建築科 総合デザイン科					【工業】 機械科 電気科 土木科 建築科
	高知追手前	普通科(人文コース) 普通科(科学コース)						
	(吾北)	普通科						
	高知丸の内	普通科(単位制)		音楽科				
	高知小津	普通科		理数科				
	高知西	普通科		英語科				
	高知北					普通科 衛生看護 科	(普通科)	
	高知商業		【商業】 総合ビジネス科 情報システム科 国際コミュニケーション科					【商業】 商業科

地区	高校名	全 日 制				定時制・(通信制)		
		普通科	専 門 科		総合学科	多部制 単位制	普通科	産業系 専門学科
			産業系専門学科	その他の 専門学科				
高 知	伊野商業		【商業】 メディアアート科 国際観光科 情報デザイン科 ビジネス会計科 情報処理科					
	春野				人文教養 芸術・スポーツ 園芸科学 食農科学 造園装飾 生活福祉			
高 吾	高岡	普通科					普通科	
	高知海洋		【水産】海洋学科					
	須崎工業		【工業】 機械科 造船科 電気情報科 ユニバーサルデザイン科					
	須崎				自然科学 人文科学 国際理解 生活創造 情報ビジネス		普通科	
	佐川	普通科					普通科	
	橋原	普通科						
	窪川	普通科					普通科	
幡 多	四万十	普通科 普通科(自然環境コース)						
	大方					普通科	(普通科)	
	幡多農業		【農業】 園芸システム科 アグリサイエンス科 グリーン環境科 生活コーディネート科					
	中村	普通科						
	(西土佐)	普通科						
	宿毛工業		【工業】 機械科 機械専攻 自動車専攻 建設科 土木専攻 建築専攻 電気科 情報技術科					
	宿毛				人文科学 自然科学 福祉文化 情報ビジネス スポーツ		普通科	
	(大月) 清水	普通科 普通科					普通科	

4 全日制高等学校の生徒数にみる普通科と産業系専門学科の割合



学校基本調査による



学校基本調査による

5 県立高等学校 新設・改編等実施状況（昭和59年度以降）

4-1

年度	学校名	改 編 前				改 編 後				備 考
		種	大学科	小学科	学級数	種	大学科	小学科	学級数	
59	岡 豊					全	普通	普通科	12	新設
62	高知南					全	普通	普通科	12	新設
63	安 芸	全	家庭	被服科	1	全	家庭	家政科	1	学科改編
	高知丸の内	全	家庭	被服科	2	全	家庭	家政科	2	学科改編
	久礼分校	全	家庭	被服科	1	全	家庭	家政科	1	学科改編
	高知園芸	全	農 業	果樹園芸科	1	全	農 業	園芸経済科	1	学科改編
				園芸生活科	1			生活科学科	1	
	幡多農業	全	農 業	農 業 科	2	全	農 業	園芸科学科	1	学科改編
				生 活 科	2			農産科学科	1	
	宿毛工業					全	工 業	情報技術科	1	科新設
小筑紫分校					全	工 業	電 子 科	1	科新設	
大方商業					全	商 業	情 報 科	1	科新設	
元	高知農業	全	農 業	生活科	1	全	農 業	生活科学科	2	学科改編
	高知東工業	全	工 業	工業計測科	1	全	工 業	電子機械科	1	学科改編
3	高知北	定	普通	普通科	2	単	普通	普通科（昼）	2	新設
								普通科（夜）	1	課程転換
4	安芸工業	全	工 業	建築科	1	全	工 業	建設科（土木専攻、建築専攻）	1	学科改編
	宿毛工業	全	工 業	土木科	1	全	工 業	建設科（土木専攻、建築専攻）	1	学科改編
	宇佐分校	全	工 業	無線通信科	1	全	工 業	情報通信工学科	1	学科改編
	小筑紫分校	全	工 業	無線通信科	1	全	工 業	情報通信工学科	1	学科改編
5	高知東					全	国際	国際科	1	科新設
6	高知追手前					全	普通	普通科 （人文・語学コース、自然科学コース）	2	コース新設
	高知南					全	国際	国際教養科	1	科新設
	中 村					全	外国語	英 語 科	1	科新設
	高知農業	全	農 業	農業経営科	1	全	農 業	生産経済科	1	学科改編
	高知園芸	全	農 業	造園科	1	全	農 業	環境デザイン科	1	学科改編
	幡多農業	全	農 業	林業科	1	全	農 業	森林科学科	1	学科改編
	伊野商業	全	商 業	商 業 科	5	全	商 業	流通ビジネス科	2	学科改編
								国際観光科	1	
情報デザイン科								1		
ビジネス会計科								1		
宿 毛	全	商 業	商 業 科	2	全	商 業	情報ビジネス科	2	学科改編	
高知北	通	農 業	農 業 科	20人					（募集停止）	
7	高知東工業					全	工 業	理工学科	1	科新設

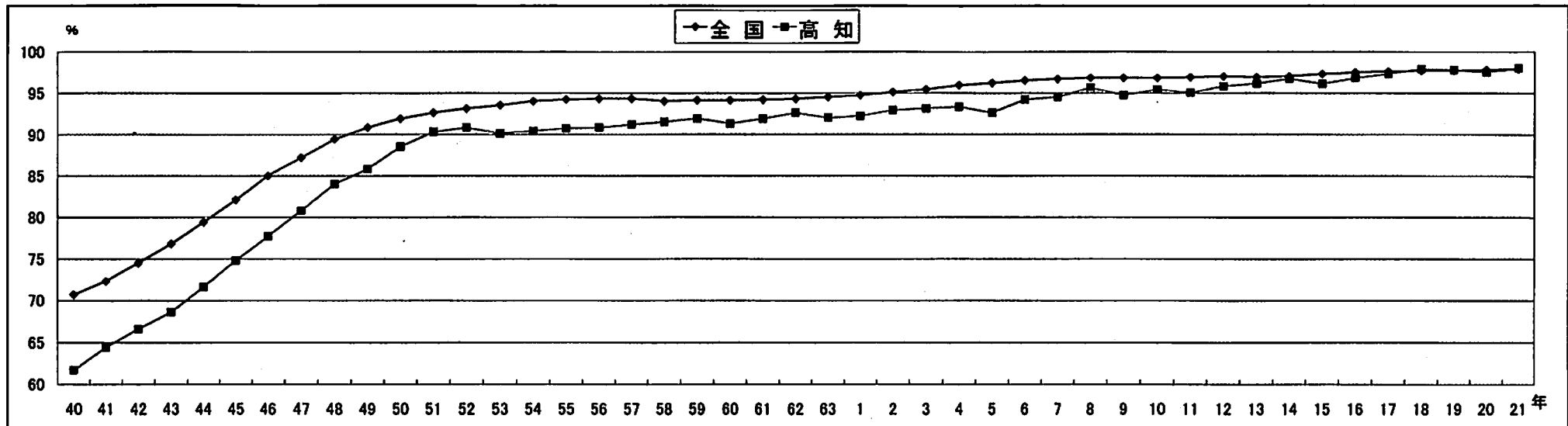
年度	学校名	改 編 前				改 編 後				備 考	
		課程	大学科	小学科	学級数	課程	大学科	小学科	学級数		
8	安 芸	全	家庭	家政科	1					(募集停止)	
	城 山	全	体育	体育科	1					(募集停止)	
	岡 豊					全	普通	普通科(体育コース)	1	コース新設	
	高知追手前	全	普通	普通科	4	全	普通	普通科(人文・語学コース)	6	全学級を コースに	
				普通科(人・語コース)	3			普通科(自然科学コース)	2		
				普通科(自科コース)	2						
	宇佐分校	定	普通	普通科	1					(募集停止)	
高知農業	定	農業	農業科	1					(募集停止)		
高知工業	定	工業	工業化学科	1					(募集停止)		
9	室 戸	全	普通	普通科	4	全	総合	総合学科 (自然科学、人文科学、芸術、 体育、生活福祉、工学、情報)	5	学科改編	
	甲浦分校	全	普通	普通科	1					(募集停止)	
	高知東工業					全	工業	機械生産システム科	1	科新設	
	高知海洋						全	水産	マリン技術科 (ナビゲーション・マリンスタディコース)	1	新設
									マリン工学科 (エンジニア・情報通信コース)	1	
									マリン科学科 (食品開発・アкваカルチャーコース)	1	
	室戸岬水産	全	水産	海洋漁業科	1						(募集停止)
水産製造科				1							
宇佐分校	全	工業	情報通信工学科	1						(募集停止)	
	全	水産	漁業科	1						(募集停止)	
清 水	全	水産	漁業科	1						(募集停止)	
10	安 芸					全	文理	文理科	2	科新設	
	宿毛工業	全	工業	機械科	1	全	工業	機械・	機械工学科	1	学科改編
				自動車科	1			生産系	自動車工学科	1	
				建設科	1			建設・	土木工学科	1	
				(土木・建築)				環境系	建築工学科	1	
				情報技術科	1			電気・	電気工学科	1	
	情報系	情報工学科	1								
小筑紫分校	全	工業	情報通信科	1						(募集停止)	
			電子科	1							
高知海洋						全	水産 専攻科	機関専攻科	10人	新設	
								航海専攻科	10人		
								情報通信科	10人		
11	四万十 (大正)					全	普通	普通科(自然環境コース)	1	コース新設 校名変更	

年度	学校名	改 編 前				改 編 後				備 考	
		課程	大学科	小学科	学級数	課程	大学科	小学科	学級数		
12	岡 豊					全	普 通	普通科 (芸術コース)	1	コース新設	
	高 知 東	全	普 通	普 通 科	6	全	総 合	総合学科 (人文社会、自然科学、国際コミュニケーション、情報メディア、生活教養)	6	学科改編	
		全	国 際	国 際 科	1						
	高知追手前					全	普 通	普通科 (総合科学コース)	1	コース新設	
13	高 知 南					全	国 際	国際科学科	1	科新設	
	嶺 北 嶺 万 嶺 十					・ 本山、吉野、土佐町中と連携 ・ 梶原、東津野中と連携 ・ 大正、北ノ川、大奈路、昭和、十川中と連携				連携型中高 一貫教育校	
14	安 中 知 中 芸 南 村					・ 県立安芸中学校、県立安芸高等学校 ・ 県立高知南中学校、県立高知南高等学校 ・ 県立中村中学校、県立中村高等学校			幷2 幷4 幷2	併設型中高 一貫教育校	
	安 芸	全	商 業	商 業 科	2					(募集停止)	
	安芸桜ヶ丘 (安芸工業)	全	工 業	建 設 科	1	全	工 業	環境建設科 (土木専攻、建築専攻)	1	1	校名変更 学科改編
				工業科学科	1			環境エネルギー科	1		
				電 気 科	1						
							商 業	情報ビジネス科	1	科新設	
	高 知 東	全	厚 生	衛生看護科	1	全	厚 生	看護科 (5年間一貫教育、 本科3年+専攻科2年)	1	定員30人に	
須 崎	全	普 通	普 通 科	4	全	総 合	総合学科 (人文科学、自然科学、国際理 解、情報ビジネス、生活創造)	5	5	学科改編	
		商 業	商 業 科	2							
須崎工業	全	工 業	電 気 科	1	全	工 業	電気情報科	1	1	学科改編	
			化学工業科	1						(募集停止)	
15	伊野商業	全	商 業	流通ビジネス科	1	全	商 業	メディアクリエート科	1	学科改編	
	幡多農業	全	農 業	農産科学科	1	全	農 業	アグリサイエンス科	1	1	学科改編
				園芸科学科	1			園芸システム科	1		
				森林科学科	1			グリーン環境科	1		
				生活科学科	1			生活コーディネート科	1		
宿 毛	全	普 通	普 通 科	4	全	総 合	総合学科 (人文科学、自然科学、スポー ツ、福祉文化、情報ビジネス)	4	4	学科改編	
		商 業	情報ビジネス科	1							
17	安 芸	全	文 理	文 理 科	2					(募集停止)	
	高知農業	全	農 業	生産経済科	1	全	農 業	農業総合科	1	1	学科改編
				園 芸 科	1			畜産総合科	1		
				畜 産 科	1			森林総合科	1		
				林 業 科	1			環境土木科	1		
				農業土木科	1			食品ビジネス科	1		
				食品化学科	1			生活総合科	1		
				生活科学科	1						
	高知追手前	全	普 通	普通科 (人文・科学コース) (総合科学コース) (情報科学コース)	4 1 2	全	普 通	普通科 (人文コース) (科学コース)	4 3	コース改編	

年度	学校名	改 編 前			改 編 後				備 考	
		種 別	大学科	小学科	学 年 数	種 別	大学科	小学科		学 年 数
17	高知丸の内	全	普通	普通科	3	全	普通	普通科(単位制)	4	男女共学に (募集停止)
			家庭	家政科	1					
			音楽	音楽科	1	全	音楽	音楽科(学年制)	1	
	大方 (大方商業)	全	商業	商業科	1	単	普通	普通科(昼)	2	校名変更 学科改編 課程転換
				情報科	1			普通科(夜)	1	
						通	普通	普通科	100人	新設
	中 村	全	外国語	英語科	1					(募集停止)
		定	普通	普通科	1					
		通	普通	普通科	100人					
	宿毛工業	全	工業	機械・生産系 (機械工学、自動車工学)	2	全	工業	機械科 (機械専攻、自動車専攻)	1	学科改編
建設・環境系 (土木工学、建築工学)				2	建設科 (土木専攻、建築専攻)			1		
電気・情報系 (電気工学、情報工学)				2	電気科			1		
					情報技術科			1		
18	中 芸	全	普通	普通科	2	単	普通	普通科(昼)	2	課程転換
		定	普通	普通科	1			普通科(夜)	1	
	安 芸	定	普通	普通科	1					(募集停止)
	春 野 (高知園芸)	全	農業	施設園芸科	1	全	総合	総合学科 (人文教養、生活福祉、 芸術スポーツ、園芸科学、 食農科学、造園装飾)	4	校名変更 学科改編
				園芸経済科	1					
				環境デザイン科	1					
				生活科学科	1					
	高知海洋	全	水産	マシ技術科	1	全	水産	海洋学科	2	学科改編
マシ工学科				1						
マシ科学科				1						
須崎工業					全	工業	ユニバーサルデザイン科	1	新設	
久礼分校	全	家庭	家政科	1					(募集停止)	
19	室戸、山田 高知東工業 高知工業 高岡、須崎 佐川、窪川 宿毛、清水	定	(省略)	(省略)		定	(省略)	(省略)		学年制を 単位制に 改編
20	高知工業	全	工業	インテリア科	1	全	工業	総合デザイン科	1	学科改編
	大 枋	全	普通	普通科	1					(募集停止)
21	仁 淀	全	普通	普通科	1					(募集停止)
22	窪 川	定	普通	普通科	1					(募集停止)

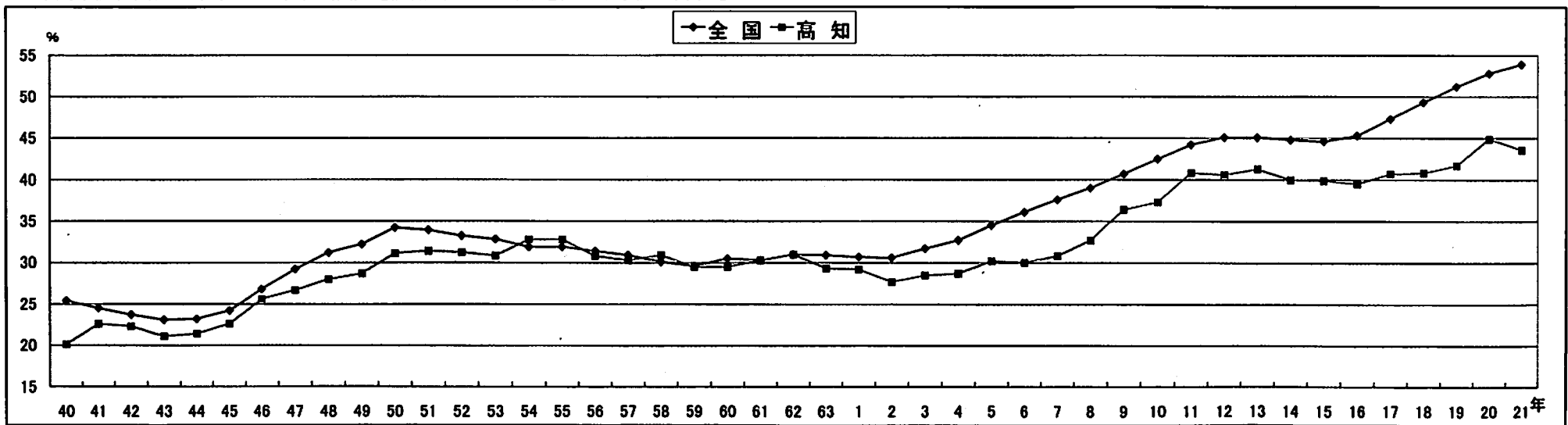
6 中学校 高等学校卒業者の進学率の推移(S40~H21)

中学校卒業者の高等学校等への進学率の推移(通信制課程への進学者を含む) (「学校基本調査」による)



	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
全国	70.7	72.3	74.5	76.8	79.4	82.1	85.0	87.2	89.4	90.8	91.9	92.6	93.1	93.5	94.0	94.2	94.3	94.3	94.0	94.1	94.1	94.2	94.3	94.5	94.7	95.1	95.4	95.9	96.2	96.5	96.7	96.8	96.8	96.8	96.9	97.0	96.9	97.0	97.3	97.5	97.6	97.7	97.7	97.8	97.9
高知	61.7	64.4	66.6	68.6	71.6	74.8	77.7	80.8	84.0	85.8	88.5	90.3	90.8	90.1	90.4	90.7	90.8	91.2	91.5	91.9	91.3	91.9	92.6	92	92.2	92.9	93.1	93.3	92.6	94.2	94.5	95.6	94.7	95.4	95.0	95.8	96.1	96.7	96.1	96.8	97.3	97.9	97.8	97.5	98.0

高等学校卒業者の大学等への進学率の推移(通信制課程への進学者を含む) (「学校基本調査」による)



	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
全国	25.4	24.5	23.7	23.1	23.2	24.2	26.8	29.2	31.2	32.2	34.2	33.9	33.2	32.8	31.9	31.4	30.9	30.1	29.6	30.5	30.3	31.0	30.9	30.7	30.6	31.7	32.7	34.5	36.1	37.6	39.0	40.7	42.5	44.2	45.1	45.1	44.8	44.8	45.3	47.3	49.3	51.2	52.8	53.9	
高知	20.1	22.6	22.3	21.1	21.4	22.6	25.6	26.7	28.0	28.7	31.1	31.4	31.2	30.8	32.8	32.8	30.8	30.3	30.9	29.5	29.5	30.3	31.0	29.3	29.2	27.7	28.5	28.7	30.2	30.0	30.8	32.7	36.4	37.3	40.8	40.6	41.3	40.0	39.9	39.5	40.7	40.8	41.7	44.9	43.8